

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900518		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	グループホーム 山吹の里	ユニット名	りんどう
所在地	〒315-0141 茨城県石岡市月岡1582-22		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月20日	評価確定日	平成23年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開放的な立地条件にあり、柵も無く日中は玄関に鍵を掛けずに入出入りが自由に出来るようになっている。</p> <p>豊かな自然環境を最大限に生かし、施設の敷地内には畑があり季節の野菜を栽培している。入居者様と一緒に収穫し、そのまま食卓にお出ししている。</p> <p>自分らしく・その人らしく暮らして頂けるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者や職員は利用者一人ひとりを理解するよう努め、利用者が自分らしく生活ができるよう支援している。</p> <p>事業所は自然環境に恵まれ、自家菜園で利用者と職員が協力して野菜を育て、収穫した野菜を食材に取り入れたり、利用者が作った漬物が日常的に食卓にのぼるなど、利用者一人ひとりができる力を発揮して日々の生活で役割を担えるよう支援をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に提示しており、毎週の朝礼で理念の唱和をしている。住み慣れた地域で「その人らしく」「自分らしく」生活をしていただけるよう、入居者の方が何を望んでいるのかを見つめ理解し共有してる。	「住み慣れた地域の恵まれた自然環境の中で、自分らしさの芽を摘まず寄り添うケアを」を旨とした理念を作成し、玄関や職員の目に付きやすい場所に掲示している。 職員は全体会議で理念を唱和し共有を図るとともに、名札の裏に記し、常に意識して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭には地域住民・消防団の方々にも参加をしていただき盆踊りやバーベキューを楽しむことが出来た。近隣の保育所の運動会を見学に行ったり、園児の散歩の際には声を掛けている。市によるシルバー体操（月2回）の指導がある。	利用者は日常の散歩や自家菜園での作業時に、近隣住民と挨拶や言葉を交わしている。 事業所の納涼祭に地域住民や地元消防団を招待し、盆踊りやバーベキューを行い交流している。 利用者は地域の保育園の運動会を見学したり、園児による歌や遊戯の訪問、中学生の吹奏楽演奏、月2回ボランティアによるシルバーリハビリ体操を受け入れ、地域の人々と日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者の方がいる地域住民の方の悩み・困り事などの相談があれば相談にのっている。必要であれば地域資源等を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで実施している。事業報告の他、事例報告や研修報告、行事への参加をしていただき利用者様やサービスの実際を伝えている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業報告や外部評価結果、事業所の課題を話し合うとともに、研修報告や事例報告などを行っている。 委員から出た意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議・行事に参加してもらい取り組みを伝えている。また、入居後の定期的な訪問があり、情報交換を行っている。	運営推進会議で市担当者に事業所の相談をしたり情報交換をしているほか、事業所の行事に参加してもらい実情を伝えている。 管理者と市担当者は定期的に訪問し合い、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のポスターを壁に貼り、いつでも意識が出来るようにしている。定期的に内部研修を行い、職員に説明し理解を深めている。居室には鍵がなく、日中は玄関等の施錠はせず出入りが自由になっている。	「身体拘束禁止の対象となる行為」のポスターを職員や利用者などの目に付く場所に掲示して職員の意識付けを図るとともに、定期的に内部研修を行い共通理解のもと玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法のポスターを壁に貼り、意識付けをしている。また、内部研修を行い具体的に説明し不適切にケアについての理解をもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度利用が必要な利用者様の場合、市町村・関係機関と連携した対応をする準備は出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を行っている。後日、不明な点が出てきた場合はいつでも質問をしてもらい答えるようにしている。また、要介護度の変更によっての料金の変更について、その都度説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。ご家族等から気軽に意見や要望を聞けるよう、電話や面会の時に話しを聞くようにしている。家族アンケートを実施し、集計をしてご家族に知らせる。また、全体会議の際に結果について話し合った。	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。家族等の面会時や家族会開催時に意見や要望を聴くほかアンケートを実施し、出た意見等を全体会議で話し合い、運営に反映させるとともに結果を家族等に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行い意見や提案を吸い上げている。「気づきメモ」を記入して細かい思いや考えを伝えてもらい、代表者や管理者は出来るだけ迅速に対応している。また、月1回の全体会議を実施し意見や情報の交換を行っている。	代表者や管理者は個人面談や全体会議で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。職員は「気づきメモ」を活用し、意見や提案を管理者に日常的に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを作成し、個人の目標の把握をしている。期間終了時には個別面談を行い振り返りを行っている。キャリアパスを導入し意識の向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加が出来る機会を作っている。また、業務中にも技術・知識を伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修等に参加して意見や情報の交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学は随時受け付けている。体験入居も行っており入居前に施設の雰囲気を感じていただいている。また、入居前には数回、自宅や病院を訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学は随時受け付けている。ご本人と共にご家族にも施設内を案内し説明している。料金体制についても詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往歴や入所申し込みの際、身体状況や家族環境により必要な関係機関との連携をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人ひとりの得意な事・好きな事を把握し、一緒に行ったり教えてもらう機会を作っている。結果を入居者の方と職員は共に喜び、思いを共有している。洗濯たたみ・掃除など役割分担があり感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの家庭での暮らし方、ご家族の接し方や介護方法などをお聞きして、出来る事は継続して行うようにしている。面会時はご家族とゆっくりと過ごす事が出来る環境を提供している。また、毎月の施設便りを送付して様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受けており、電話等も取り次いでいる。ご家族対応で、自宅へ帰ったり娘さんに散髪をしてもらったりしている。ご家族の写真を部屋に置いたりしている。	職員は利用者が馴染みの人と電話で話したり、手紙のやり取りができるよう支援しているほか、家族等の協力を得て自宅への一時帰宅を支援するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性も考え、関係が円滑に行くよう見守り、時には職員が間に入っている。声を掛け合って散歩に行ったり、畑の収穫に行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居時には介護サマリーを作成し施設での生活をお伝えしている。また、転居先での担当者に生活状況などを聞いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の何気ない言葉にも注意を払って希望や意向を探るようにしている。日常生活の中での「～したい」の思いを大切に対応している。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、表情などから思いや意向の把握に努めている。 利用者の「職員に対して感謝の気持ちを表したい」という一言から勤労感謝の日に利用者がけんちん汁を作ることになり、買い物から調理まで利用者と職員が一緒に行うなど、職員は利用者の何気ない言葉を聞き逃さず日々の生活に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に「生活史」をお聞きして、今までどんな生活をしてきたのかを把握できるようにしている。また、前サービスからはサマリー等を使い、様子・状態・対応方法などを把握している。入居前には自宅や病院に出向いて様子を見させてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく観察し、その情報を職員全体で把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	目標の期間に合わせてモニタリング・担当者会議を行っている。また、期間中であっても変化がみられた場合は、その都度見直しを行っている。会議の場を設けなくても申し送りの時間を活用したり、短時間でも情報交換をし共有している。	介護計画は医師の意見をもとに、職員の「気付きメモ」や「申し送りノート」を参考に関係者で話し合い、3ヶ月毎に作成している。 新規利用者の場合や要介護度変更時には、家族等と話し合い介護計画を作成するほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録するようにしている。気づきや工夫については申し送り時や申し送りノートなどにより情報を共有している。実施状況に問題がある場合はカンファレンスを行い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスだけにとらわれず、ボランティアなどの協力をお願いしている。また、心身状態の変化に合わせて病院・他施設につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバー体操指導員の方に訪問してもらい、月に2回体操の指導を受けている。また、地域包括支援センターや民生員の方には運営推進会議などで助言を頂いている。また、地域の幼稚園の園児や外部ボランティアの慰問もあり、楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、施設のかかりつけ医により往診が行われている。かかりつけ医の変更に際しては紹介状の作成をしてもらっている。その他の医療機関が主治医の場合はご家族と連携をし通院・受診を行っている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。週1回協力医療機関の医師による訪問診療があり、受診結果を家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり、体調の管理を行っている。かかりつけ医の診察内容や日々の様子・状態の変化についての報告をし、相談・指導を受けている。その内容は記録し職員間で共有している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、施設での生活・対応を介護サマリーを利用し病院側に伝えている。担当看護師と話しをする機会を作り情報の共有に努めている。入院中は家族との連絡を密にとるようにし様子・状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル時の対応について、ご家族には意向書に記入をしてもらっている。状態の変化についてかかりつけ医や訪問看護に相談し助言を受け、それについて職員間で話し合い方針を共有している。現在はターミナルの方は入居されていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に説明し意向を書面で確認している。 利用者の状態に変化が生じた場合は関係者で話し合うとともに方針を共有し、看取りを含め事業所のできる最大の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成してあり、いつでも閲覧できるようにしてある。夜間でも協力医の指導が受けられる環境である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。消火訓練も実施し消火器の使い方も実際に行った。また、室内で発炎筒を焚き、煙の動きを体験した。	夜間を想定した避難訓練を含め年2回避難訓練を実施しているが、訓練で明らかになった反省点や課題を記録に残すまでには至っていない。 発炎筒を使って室内の煙の流れを確認したり、消火器を使った消火体験を近隣住民と行っているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	運営推進会議などを活用し、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう更に働きかけることを期待する。 避難訓練で明らかになった反省点や課題を記録するとともに次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所前の呼ばれ方・言葉使いなどをご家族からお聞きして、慣れ親しんだ言葉掛けを心がけている。また、トイレ・入浴など羞恥心に配慮して言葉掛けを行っている。	職員は利用者の希望を受けてトイレについて立てを設置したり、ドアの内側に部分カーテンを設置し、利用者のプライバシーの保護に努めている。 職員は利用者を慣れ親しんだ呼び名で呼びかけ、人格を尊重した言葉遣いで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定はご利用者に委ね、小さな事柄でもお聞きしながら行っている。意思疎通の困難な方や自己主張の少ない方には、表情・体の反応を観察して思いを読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調に合わせて1日のスケジュールを変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人・ご家族から好きな色や服装のこだわりなどをお聞きしている。日々の着替え時には相談しながら服を選んでいる。また、「入居以前はどうだったか」を意識して支援を行っている。また、2ヶ月に1回訪問理美容を利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや刻み・食器洗いなど一緒に行っている。また、味付けや調理方法などを教えてもらったりしている。漬物漬けが得意な方に畑の野菜で漬物を漬けてもらい食卓に出している。	食事は利用者がアイディアを出して献立を決め、自家菜園で収穫した季節の野菜を使って調理している。利用者は職員に調理の仕方を教えながら一緒に皮をむいたり刻んだり、食器洗いや食器拭きなどを行っている。職員は利用者の状態に合わせて刻み食やとろみ食を提供している。外食では店に軟らかめの食事を用意してもらうよう依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量を職員が把握できるようにしている。治療食を必要としている方にも、出来る範囲で調理をして提供している。食器や配膳の時間も個々の状態に合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にはうがいの声掛けをし、食後は歯磨きの声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時トイレ誘導ではなく、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ったり、様子を観察して「トイレのサイン」をつかみ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するほか、細かい観察でサインを把握し早めに誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い状態を把握している。食物繊維を多くとれるようメニューを考えている。下剤を使用する前に、水分・運動などで排便が促せるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	共同生活の為に入浴日を決めているが、その日の気分や体調に合わせて変更している。湯加減・入浴時間等も個人に合わせて調節している。シャンプーなども本人の好みの物を購入し使用している。	一日おきに入浴を支援しているが、体調や気分に合わせて変更している。 入浴を嫌がる利用者には足浴や手浴、清拭で対応している。 職員は季節が感じられるよう菖蒲湯や柚子湯などを取り入れたり、利用者に合わせた湯加減や好みのシャンプーを使用するなど、入浴が楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思で居室で休まれたり、共有スペースで過ごされたりしている。共有スペースにはソファがあり、庭を眺めたり居眠りをしたり自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬している薬の情報も一緒に綴じてあり、いつでも確認が出来るようにしている。処方の変更になった時は服薬後の状態を医師に報告している。与薬は担当を決め、名前を読み上げ確認してもらい誤薬や飲み忘れを防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、畑仕事や掃除など日々の中で役割が出来ている。その都度、感謝の気持ちを伝えている。カラオケや習字など本人主体で行われている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気候が良い時は散歩に行っている。月に1回、買い物の日を設けて買い物に出かけている。また、ご家族対応の受診の際などは外食をされている。	利用者は日常的に近隣を散歩したり、月1回買い物に出かけている。利用者の希望にそって家族等との通院や外出時の外食などを支援している。 職員は利用者が花木センターや花見、栗拾いなどに出かけられるよう、季節毎の遠出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所管理となっている。家族了承の中で、2000円範囲で個人管理をされている方がおり、月1回の買い物の日にはご自分で会計をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使い、電話で話す事が出来ている。ご家族からの手紙はご本人に渡している。また、手紙を投函したりハガキを購入してきたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースと玄関の壁には、季節ごとに製作物を入居者様と協力して作り飾っている。室温や湿度にも気をつけており、居室に湿ったタオルを掛けられるよう壁にポールを設置している。	共用空間には利用者と職員が共同で制作した季節毎の作品や習字の作品が飾られている。 職員は利用者が思い思いの場所で過ごせるよう共用空間にソファを置いたり、玄関横にベンチを設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で自分の居場所が出来ており、ご自分の椅子で寛がれている。ソファがあるので、気の合った同士で隣に座り談笑されている。また、庭にはベンチがあり自由に戸外に出て1人の時間を楽しませている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物を持ち込まれたり、タンスの上に奥様の写真やご家族から送られた色紙などを飾られている。居室の環境はご本人主体で作られている。	タンスとベッドは備え付けだが、職員は利用者を使い慣れた物品を自由に持ち込んでもらうよう働きかけ、利用者主体の居室づくりを支援している。 職員は居室の温度や湿度に気を配り、濡れタオルを掛けて乾燥を防ぐ工夫をしている。 居室入り口に押し花入りの名札を掛け、利用者が部屋を間違えないよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりが設置されており、杖・シルバーカーなども併用して歩かされている。居室には目印を付けたり、トイレや風呂場には大きく表示をして分かりやすくしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 山吹の里

作成日 平成23年7月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時や避難訓練等地域の方々の協力が少ない	災害時や避難訓練等地域の方々の協力が得られる	避難訓練・消火訓練時には地域消防団の方々の参加により行っているがよりいっそう緊密に連携を取ると共に地域の方々の参加も募る	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。